河正雄（ハ・ジョンウン）美術館「花岡ものがたり」を題材にした国際学術シンポジウム

「5・１８と花岡事件を関連付けて紐解く」

1945年、花岡鉱山で起きた朝鮮人・中国人419人の虐殺事件を松田解子（まつだ・ときこ）が小説で真実を伝えた

日本人の学者3人がシンポジウムに参加

「光州精神は解子の生涯と重なる」

「光州5・18事件は、ユン・ソギョル前大統領と光州市民らに、それぞれ違う意味で影響を及ぼしたと思います。ユン・ソギョルには80年5月18日当時も戒厳令が出されていましたので、これを経験値として自分にもできると思って、今回の宣布に至ったのでしょう。反面、光州市民たちは、80年に全斗煥一派、新軍部が画策した戒厳令により虐殺を被ったトラウマが植え付けられました。市民たちが広場に集まったのは、これ以上不幸な歴史を繰り返させられないという切迫した心情のためであったと思います」

18日、光州市立河正雄美術館では、河正雄コレクション「花岡ものがたり」をモチーフとして、国際学術シンポジウムが開かれた。この日、シンポジウムには日本人の学者3人が参加し、参加者の注目を集めた。茶谷十六（ちゃたに・じゅうろく）秋田県歴史教育協議会会長、高橋秀晴（たかはし・ひではる）秋田県立大学副学長、江崎淳（えざき・じゅん）松田解子会代表がこの3名だ。

「花岡事件」は、1945年6月、日本帝国政府が労働力を確保するため、花岡鉱山に朝鮮人と中国人労働者を投入した事件だ。しかし、以後日本の意兵により419名が集団虐殺されるという悲劇が起きた。

日本の作家、松田解子は、この事件をモチーフとした「地底の人々」という小説を執筆し、日本帝国政府の蛮行を告発し、謝罪の意を伝えることに力点を置いた。「花岡事件」以後、詩人や画家などの芸術家たちが当時の事件を木版画（花岡ものがたり）として制作し、河正雄名誉館長がこれを所蔵するに至った。

『松田解子の文学と生涯』を主題とした今回のシンポジウムで、3名の日本人の学者たちは、基調講演、発題を行った。高橋秀晴副学長が基調講演を行い、江崎淳代表（七ツ館事件と花岡事件の真相）と茶谷十六会長（韓国に拡張する松田解子文学と生涯）は、各々発題を行った。

シンポジウムが終わり、午後7時に光州市忠壮路（チュンジャンノ）のラマダホテルで日本人の学者たちに面会した。通訳は、この日『文炳蘭（ムン・ビョンナン）と松田解子の抵抗精神』という主題の発題を行った金正熙（キム・ジョンフン）全南科学大学教授が務めた。

シンポジウムが行われた日が、ちょうど歴史的な5月18日であったことから日本人の学者たちも5・18に対する格別な関心を示した。

高橋秀晴副学長は「12・3非常戒厳は、市民たちが自発的に立ち上がり、中止させたという点で、非常に歴史的な意味がある」とし、「性格は多少異なるが、松田解子の小説『地底の人々』で描写された弾圧と残忍な出来事は、光州5・18についても、その残酷性等を関連付けて捉える余地を与えてくれる」と語った。

光州市立美術館主催のシンポジウムが終わり、日本の学者3人がインタビューに応じた。左から高橋秀晴・秋田県立大学副学長、茶谷十六・秋田県歴史教育者協議会会長、江崎淳・松田解子会代表。

日本帝国主義に反対した作家、松田解子氏の遺志を引き継ぎ、日本の学者3人が19日午前、軍事政権と帝国主義に反対した詩人、文炳蘭氏の国立5・18墓地を訪れ、参拝した。<金正熙教授の提供>

江崎淳代表は「韓国に来る前に、作家ハン・ガン氏の作品をたくさん読んだ。光州が5・18を通じて民主主義と平和を獲得したことは意味のあること」としながら、「日本の花岡事件は自国民ではない韓国人と中国人の抗争精神が中心となるため、特異性がある」と語った。

茶谷十六会長は「12・3非常戒厳のとき、軍隊が国会に入って行ったが、発砲もせず、消極的に行動していた場面が印象的だった」とし、「戒厳令が解除された途端、日本では即刻これを報道した」と語った。

高橋秀晴副学長は「光州民主化運動について知ってはいたが、光州に来てみると、実際に起きた出来事が想像以上だったことに驚かされた」と話した。

また、彼は「今回のシンポジウムにて松田解子と光州5・18を関連付けてアプローチした金正熙教授の観点が特異的だった」とし、「詩人の文炳蘭氏と松田解子の抵抗精神をクローズアップする良い機会だったと思う」と言及した。

茶谷十六会長は、文炳蘭氏との出会いについて語った。彼は、去る2014年に光州に訪問した際、詩人と知り合ったことについて回顧した。茶谷十六会長は「文氏は、全体的に柔らかなイメージだが、抵抗詩を書き、帝国主義批判のための作品を生み出す面においてはずば抜けているように感じた」と語った。

彼は、5月18日に光州でシンポジウムを開催できたことについて、並々ならぬ思いを語った。「『花岡ものがたり』を扱った小説や版画は、平和を主題としているため、光州市立美術館に最も相応しい作品」とし、「平和と民主化のための光州市民の抵抗と光州精神は、日本帝国政府による植民地時代における朝鮮人のヒューマニズムを堅持した松田解子の生涯と重なるところがある」と述べた。

/文・写真＝パク・ソンチョン記者
skypark@kwanju.co.kr

제 70회 호남예술제 입상자 - 피아노

<심사위원>
구재향(호남신학대 교수)
박규연(군산대 교수)
서윤진(광주교육대 교수)
신수경(전남대 교수)
조성경(전남과학대 교수)

◇ 피아노 고등부 1,2학년
▲ 금상
16 전봉강(전남예술고2)
17 오다인(여수화양고1)
▲ 은상
8 최문서(광주예술고2)
11 주지율(여수한영고1)
14 장동원(계원예술고2)
22 전우영(고려고2)
▲ 동상
2 이소원(전남예술고1)
5 김영은(2008년생)
6 김효주(금호중앙여자고2)
9 최지우(광주여자고2)
10 박규랑(광주금호중앙여자고2)
13 문솔(상무고2)
15 조승효(대광여자고2)
19 김예지(전남예술고2)

◇ 피아노 고등부 3학년
▲ 금상
7 이진희(국제고3)
16 김태성(전북제일고3)
▲ 은상
1 정다슬(광주예술고3)
2 안나현(전남예술고3)
3 양다정(서영여자고3)
6 최소정(군산영광여자고3)
14 오채연(이리여자고3)
15 박상준(광주예술고3)
17 이채은(여수충무고3)
▲ 동상
4 이지민(상일여자고3)
5 정민욱(동단고3)

◇ 피아노 초등부 5,6학년
▲ 최고상
78 이슬하(은별초6)
▲ 금상
1 주아진(무등초5)
4 신민욱(조봉초6)
34 최지윤(광주교대광주부설초5)
38 박소윤(전주전동초5)
50 안수혁(광양대동초6)
52 김지태(태봉초5)
61 김소율(용두초5)
67 정산(일곡초6)
74 송대원(광주학강초6)
83 양경(광양중앙초5)
95 전현경(전주우전초6)
97 노유신(전주효천초5)
129 김동아(광주효덕초6)
▲ 은상
2 신현서(양지초6)
6 김유민(고흥동초6)
12 서준(전주새연초6)
26 신수태(일동초5)
31 박별(민호초6)
39 박도영(광주효덕초5)
42 박주성(태봉초6)
43 신유연(산정초5)
46 이서연(광주교대광주부설초6)
51 이혜원(금부초5)
56 윤하영(광양대동초5)
62 류리원(유촌초5)
63 이혜나(효천초6)
68 전시영(여수송현초5)
70 윤세영(산정초5)
80 김서윤(무안동초5)
88 김시훈(북포항도초6)
98 김주하(은별초6)
109 조정윤(전주교대전주부설초5)
121 소지유(은빛초6)
123 김지인(외서초5)
149 김시은(영천초6)
▲ 동상
5 배태인(담양남초6)
10 윤아나(용주초6)
11 김희서(광주월산초6)
17 홍재민(조봉초6)
19 강태인(남평초6)
27 이건우(광주삼육초6)
30 이신애(계자서머리스찬스홀6)
32 정수지(동림서초6)
33 송채린(일신초6)
36 서예나(계자서머리스찬스홀6)
37 김민지(화개초6)
41 김예나(일동초6)
54 박이현(주월초6)
64 박소연(금부초6)
69 박민지(신창초6)
75 박정은(은빛초6)
76 이아윤(여수송현초5)
84 박정인(라온초6)
85 김민선(조봉초6)
89 임선율(화개초6)
90 박예슬(동곡초6)
94 조성은(광주방림초6)
100 이진하(무안행복초6)
103 최지혜(일곡초6)
120 이건희(동림초6)
130 윤유나(영천초6)
135 문설아(담양남초6)
142 장서윤(불로초5)
143 최예본(신대초6)
147 김세아(전주서신초5)

※ 장려상 입상자는 호남예술제 홈페이지를 참조 바랍니다.

광주 대표 공예작가 키운다

대한민국공예품대전 광주 예선…다음달 5일까지 6개 분야 작품 공모

광주디자인진흥원(원장 김용모)은 지역을 대표하는 공예품을 발굴·장려하기 위한 제65회 대한민국공예품대전 광주광역시 예선을 연다.

이번 광주지역 예선대회는 오는 6월 5일까지 '목·칠' '금속' '도자' '섬유' '종이' 기타공예' 등 6개 분야에 걸쳐 작품을 공모한다.

참가자격은 광주시 소재 영업이 가능한 공예사업자, 개인 및 광주광역시 소재 학교에 재학중인 학생이면 누구나 참가 가능하다.

예선 참가를 위해서는 반드시 온라인접수와 현장 접수에 모두 신청해야 한다. 온라인접수는 오는 6월 2일부터 5일까지 대한민국공예품대전 홈페이지에서, 현장접수는 6월 4일부터 5일까지 광주디자인진흥원 3층 전시장에 방문해 접수해야 한다.

이번 광주지역 예선에서 선정된 수상자에게는 수상자 함께 개발장려금(시상금) 수여와 본선 참가 자격이 동시에 부여된다. 제65회 대한민국공예품대전 본선 심사는 한국공예협동조합연합회의 주관으로 오는 8월 충남 한국전통문화대학교에서 열린다.

이번 공예품대전은 국가유산청과 한국공예협동조합연합회가 주최하고 한국공예협동조합연합회가 주관하며 올해 55번째를 맞았다.

자세한 내용은 광주디자인진흥원 누리집에서 확인 가능하다.

/박성현 기자 skypark@kwangju.co.kr